上州文化

contents

巻頭言／上原訓幸 ②
特集 ぐんまミュージアム散歩／桑原高良 ③
上野東歌探訪／北川和秀 ⑥
（公財）群馬県教育文化事業団 INFORMATION ⑩
地域文化をつなぐ／山田忠夫 ⑪
ART NOW 「新古代主義絵画について」／藤井　靖 ⑫
カフェの隅から　この子たち／竹田朋子 ⑭

「ある日」　寺崎雪江

公益財団法人　群馬県教育文化事業団　2012　No.130

巻頭言　生活と文化

群馬県生活文化部長　上原訓幸

今年から文化行政を担当するようになり、にわか勉強をはじめ、群馬の文化や歴史について色々考えるようになりました。

群馬は、東国文化のふるさとと言われています。大和政権により国の形が固まり始めるころから平安時代にかけて、今の関東周辺で栄えた文化を東国文化と言いますが、この群馬の地域がその中心であったわけです。当時のこの国は現在の奈良や京都に都が置かれていましたが、時代とともに関東地方も経済的に発展し、群馬の地域には大和政権と連携した大きな勢力が形成され、仏教文化や文字文化等も浸透し、経済的にも文化的にも当時の東日本における一大先進地域になります。

その当時は、古墳の築造や馬、絹、絹織物、埴輪の生産など当時の最先端の技術を要する産業も盛んで、和銅年間に絹織物が貢納された記録もあると先日桐生でお聞きしました。そうした歴史が明治の富岡製糸場を経て、今のものづくり群馬に繋がっていると考えられます。

また、この地域は、古くから東山道や中山道などの街道が東西南北に発達し、人、物、情報の集まる拠点としてそれぞれの時代に大きな役割を果たしてきましたが、そうしたことも高速交通網の要衝としてその役割を果たし続けている今の群馬に繋がっていると思います。

群馬交響楽団や上毛かるたなど群馬が誇る特有の文化も古代から続く長い文化や歴史の積み重ねの上に生まれ、育ってきたものであると思います。

今でも東日本最大の前方後円墳である太田天神山古墳や上野国分寺跡、多胡碑など多くの歴史文化遺産が残されており、群馬で生きた人々の足跡の一端を見せながら我々に昔を語りかけているように思えます。

ただ、残念なことに、群馬のそうした面があまり知られていないことも事実です。そのことは我々行政に携わる者としての反省でもありますが、県としても今年から群馬の文化や歴史を再認識してもらう取り組みを充実し、県民の方々にそうした群馬の良さやすごさをよく知っていただきたいと考えております。よく知れば好きになり、また、人に伝えたくなります。それこそが本当の情報発信にもなると思っています。

また、こうして群馬の来し方を思い、今日まで繋がる時代時代の先人の苦労を思うとき、今の時代を生きる者の一人として、この群馬を健やかな姿で次の世代に引き継いでいかなければならないと、身の引き締まる思いでおります。

ぐんま ミュージアム散歩

自然と人間、美術館が融合 両毛地域の文化交流拠点に

②「群馬県立館林美術館」（館林市日向町）

桑原高良

「鶴舞う形の群馬県」（上毛かるた）と詠われた群馬県、その鶴の頭部に位置する館林市。群馬県立館林美術館は2001（平成13）年秋に２館目の県立美術館として開館、間もなく丸11年が経過する。県境地域に立地し、自然と人間・美術館の融合を基本に多彩な挑戦を続ける同館を紹介する。

国道１２２号を太田市方面から進み、館林市内に入りしばらくすると美術館入口の信号がある。そこを右折し、誘導路に沿うように進むと芝生の丘の向こうに美術館の建物が見える。周囲には運動公園や保安林を利用した「彫刻の小径」があり、週末や休日には多くの家族連れなどでにぎわう。

この地に、第２の県立美術館が建設された経緯を振り返ってみる。１９８０年代後半、地元の文化協会から県東部への美術館建設を願う請願が出された。背景には、県立文化施設がそれまで県の中・西部に集中していた現状があった。館林市などの協力も得て90年代から準備が進められ、２００１年10月に開館した。

開館記念展は「自然と人間」。この基本テーマに沿って、現在まで、調和や共生など自然や人間の多彩な関わり表現した国内外の近代・現代の作品を収集、展示してきている。館の生命線となる収蔵作品数も、開館当初の約５７０点から現在では９００点規模にまで増えてきているという。その内容は、フランソワ・ポンポンの作品を中心とする彫刻作品、永井一正、南桂子、ピカソ、シャガールの版画作品などが中心だ。

染谷滋館長は、地域の財産発見、隣接地域の美術館との連携に力を注いでいる。「美術館の基本は、コレクションの見直しと活用。10年を機にやっと所蔵品目録ができ、一人前の美術館になった。その意味では11年目から新たなスタートになる」と話す。

◇見所も随所に

美術館駐車場から美術館までの歩道には、見所が多い。鯉が泳ぐ池に架けられた小橋を渡ると、左手の芝生の丘上に野兎の彫刻（バリー・フラナガン作）が出現する。今にも駆け出しそうな姿が緑の芝生にぴったりと合っている。親子連れ、特に子どもたちに人気で、記念写真を撮る姿も多い。

美術館棟に向かう歩道脇には、入館者を導くように、人工のせせらぎが設けられている。芝生の緑、池や水の流れは、訪れる人たちの心の癒しを生んでいる。

入館者から好評なのが、展示室に向かう通路部分やエントランスホールからの眺め。四季折々、時間の経過とともに楽しむことができる。「ゆったりと、くつろぐことができる空間が多い」「開口部が多く、周囲の自然が館内から楽しめる。絵のように感じる」などの声も聞いた。

彫刻家のアトリエを再現した別館も独特の雰囲気を持つ。近くのベンチに座り、読書する人の姿も時

第一展示室内から外部を見る

ユニークな形状の第一展示室棟

芝生広場から美術館棟方向を見た風景

人気のミュージアムショップは自然光にあふれる

折見られる。自然と人間と美術館の融合がここでも実現している。

建物外観の美しさも同館の特徴といえる。なかでも円柱形の一部を切り取ったような形の第一展示室は、見る角度によって形が異なって見える。人気の撮影ポイントの一つになっている。もちろん展示室内からの眺めも抜群だ。

◇自然観賞しながら食事も

美しい景色を見ながらミュージアムグッズを購入したり、食事ができるのも、ここ館林美術館の特徴。ミュージアムショップは美術館開館と同時にオープン。企画展の図録や美術書だけでなく、作家もののユニークなグッズも扱っている。ショップの先には、ハッシュド・ビーフとショコラケーキが人気のレストラン（イル・コルネット）がある。野外の芝生や木々を、大きな開口部越しに見ながら食事を楽しむカップルも多い。ベジタブルカレーもなかなかの味だ。ミュージアムショップやレストランのみの利用もできる。ただし美術館休館日は休み。

◇企画展「館林ジャンクション」

館林美術館の〝今〟を見てみよう。同館では7月1日までの会期で、企画展「館林ジャンクション中央関東の現代美術」を開催中。なんともユニークで、大胆なネーミングの展示だ。

館林美術館を中心に、半径25キロの円を描き、その中で創作活動を展開する16人の作家たちの作品を展示している。群馬、栃木、茨城、埼玉の4県県境地域を、「中央関東」ととらえ、地域性や人の交流を意識した企画。表現方法も絵画、インスタレーションと多彩、作家の年齢も幅広い。

このユニークな企画について染谷館長は「まさにこの美術館のある地域を意識したもの。両毛地域（群馬・栃木）の現役作家を中心に、茨城や埼玉も含め範囲を25キロの圏内に広げ、中央関東と定義した。現実には館林ジャンクションはありませんが、既成の概念を取り除いて考えてみたわけです。現代美術にここ館林で出会うことができる新しい試みで、館林美術館が結合点（ジャンクション）となり新たな地域交流、文化交流が深められればと考えています」と解説する。

その背景に、桐生、館林、足利、佐野など規模は小さくとも個性的な都市が存在し、その間では人と人の交流や付き合いも県境を越えて行われている地域特性がある。「繊維が取り持つ文化や産業、田崎早雲を筆頭にした南画文化の影響など共通項も多い」（染谷館長）という。実際、同展出品作家16人のうち5人は足利在住の作家だ。

会期中には、作家による参加型イベントやギャラリートーク、学芸員による解説会なども予定されている。同地域の現代美術を牽引し、出品作家でもある長重之さん（足利市）は、館内から離れ、近くの彫刻の小径にある自作（交換テーブル）を使って〝物々交換〟イベントを開く（6月24日実施）。作家も参加者も交換物を持参する企画だという。

意欲的な作品が展示室を埋める「館林ジャンクション」展

コレクション有効活用と隣接地域美術館との連携など、積極的に取り組む同館。染谷館長は「公園に来る人も多く、広い芝生も知られているが、まだまだ初めて来館する人が多い。その意味では将来的な館の可能性はある。一方で、建物も素晴らしいが、いい展覧会をやらないと美術館として生き残っていけないのも現実。美術ファンはきびしい。よく見ていますから」と、来館者獲得の重要性とともに、既存の美術ファンに応える企画についても気遣いをみせた。

群馬県立館林美術館

館林市日向町 2003
☎ 0276-72-8188　FAX0276・72・8338
休館日：月曜（休日の場合は翌日）、年末年始
観覧料：展覧会によって異なる。「館林ジャンクション」展は、一般 600 円、大高生 300 円。

染谷滋館長に聞く
「収集と保存が生命線」

□館林美術館の特徴と魅力についてお聞かせください。

染谷　何と言っても周囲の自然と調和した建物の美しさ、そして自然の美しさを満喫できる環境です。当館は「自然と人間」をテーマに、さまざまな活動を行っていますが、美術館が伝え広めたい美の本質が、自然の中にも人間の創造の中にもあることを、来館者が感じてもらえれば幸いです。美術館の無料ゾーンや周囲を散策するだけでも、そのメッセージが伝わる施設だと思います。最近、渡良瀬遊水地がラムサール条約に登録されるニュースが話題になりましたが、館林が位置する東毛地域は、環境問題を考える上で歴史的にも重要な場所です。当館の「自然と人間」というテーマは、ますます価値を増すことでしょう。

□高崎にある県立近代美術館に長年在籍しその発展を担い、現在は比較的歴史の浅い館林美術館を率いる立場で感じること。

染谷滋館長

染谷　私は学芸員として地域の美術に関心を持っていますが、県内の異なる地域で働けたことも、複眼的視点を持つことができて幸運でした。同じ群馬県立の美術館でも、コレクションや成立の背景が異なり、館運営にも違いがでます。両館の運営理念にも、もっと明確な違いを明文化していいように感じています。

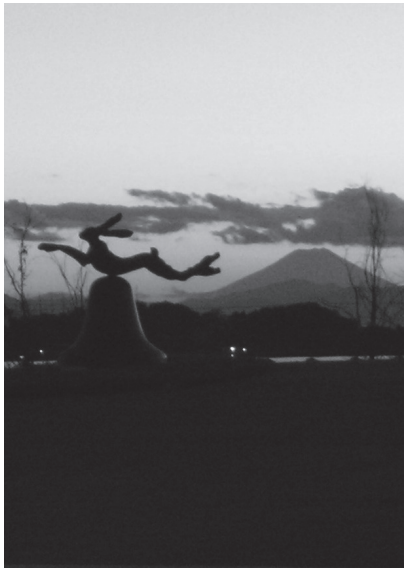
□美術館は、この時代にどうあるべきでしょうか。

染谷　美術館は時代とともに変わってきました。それは、美術が時代を写す鏡だからです。学芸員の役割にしても、収蔵庫の番人という昔のイメージは、展覧会の企画運営を任されたキュレーターに変わり、今では来館者と作品を結びつけるメディエーター（仲介者）の役割が強調されています。その一方で変わらない理念もあります。過去の文化遺産を大切に保存すると同時に、近現代の優れた作品も収集し続けることです。そうしないと、この時代を証言する大事な文化遺産を失うことになります。美術館が単なるイベント会場ではないのは、この収集・保存の機能をもっている点です。でも残念なことに、財政難を理由に、最近は収集活動が大幅に機能低下しています。美術館に「失われた時代」を作ってはならないと思います。

◎館長のお気に入りポイント

彫刻と富士山の風景

所蔵作品なら何と言ってもフランソワ・ポンポンの《シロクマ》でしょう。ロダンの弟子で、動物彫刻の革新者であったポンポンの評価は、日本ではまだ定着していませんが、近い将来必ず正当な評価を受けるでしょう。それは、来館者のアンケートからも予感できます。作品以外では、ホールから眺める日没です。特に、冬の晴れた日に、野外に置かれたバリー・フラナガンの野兎の彫刻の向うに見える富士山＝**写真**＝が、夕焼けに浮かび上がる風景は、至福の時間を与えてくれます。


兎と富士山

桑　原　高　良

（くわばら　たかよし）

群馬ペンクラブ会員、群馬県文学会議会員。

1950年生まれ。74年に上毛新聞社入社。藤岡支局長、前橋支局長、編集局文化生活部長、出版局次長、文化情報誌「上州風」編集長、編集局次長などを経て太田支社長。館林シャトルおよび高崎タカタイの編集長。2011年3月退職。現在、中央カレッジグループ学園新聞編集長。著書に『二足の草鞋と本音人生―聞き書き大川栄二』『わがこころ　語る上州人　塩原友子』『初代コロムビア・ローズ物語―人生は歌とともに』（いずれも上毛新聞社刊）。

上野東歌探訪

北川和秀　一九五一年生。学習院大学大学院人文科学研究科国文学専攻博士課程修了。同大学助手を経て、一九八五年群馬県立女子大学文学部専任講師。現在は同大学教授。専門は上代文学。主な著書に『続日本紀宣命　校本・総索引』『群馬の万葉歌』など。

前回は水中に生える植物「おほゐぐさ」（現代のフトイ）をよんだ歌を取り上げた。今回はその関連で同じく水生植物の歌をよむことにする。

◎上毛野伊香保の沼に植ゑ小水葱かく恋ひむとや種求めけむ（三四一五）
◎上毛野可保夜が沼のいはゐつら引かばぬれつつ吾をな絶えそね（三四一六）

前回の歌は、

◎上毛野伊奈良の沼の大藺草他所に見しよは今こそ益れ（三四一七）

であった。三首とも初句が「上毛野」で始まり、第二句目に沼の名前があって、第三句目で植物名をよむという共通点がある。歌番号から分かるように、この三首は連続して万葉集に収録されている。以前取り上げた、

◎伊香保嶺に雷な鳴りそね……（三四二一）
◎伊香保風吹く日吹かぬ日ありと言へど……（三四二二）
◎上毛野伊香保の嶺ろに降ろ雪の……（三四二三）

の三首も、雷・風・雪という気象をよんでいるという共通点があり、これらもまた連続している。巻十四には歌の内容による配列意識がうかがえる。

一、「植ゑ小水葱」の歌について

上毛野伊香保の沼に植ゑ小水葱かく恋ひむとや種求めけむ（三四一五）

上野国の伊香保の沼に植えている小水葱ではないけれど、私はこんなに恋に苦しもうとして、わざわざ種（原因）を求めたのだったかなぁ（そんなはずではなかったのに）。

可美都気努　伊可保乃奴麻尓　宇恵古奈宜　可久古非牟等夜
多祢物得米家武

コナギは『日本大百科全書ニッポニカ』（小学館）には次のようにある。

ミズアオイ科の一年生の水生植物。根葉は数枚、葉身は披針形ないし卵状心形、長さ3～7センチメートル、幅1.5～3センチメートル、長柄がある。茎は根葉よりははるかに短く、1枚の葉および3～7個の花をつける。花は9、10月に開き、青紫色、径1.5～2センチメートル。水田や池沼に生え、北海道を除く日本各地に自生し、東アジアおよび東南アジアに広く分布する。茎や葉は食用になる。

万葉集にコナギをよんだ歌は三首ある。問題にしている歌も含めて列挙する。

①春霞春日の里の植ゑ小水葱苗なりといひし枝はさしにけむ（四〇七）
②上毛野伊香保の沼に植ゑ小水葱かく恋ひむとや種求めけむ（三四一五）
③苗代の小水葱が花を衣に摺り馴るるまにまに何か愛しけ（三五七六）

①は譬喩歌で、「大伴宿祢駿河麻呂、同じ坂上家の二嬢を娉ふ歌一首」とい

う題詞がある。「春霞」は「春日」にかかる枕詞、「さし」は芽が出て伸びること。歌意は、「春日の里の植えたコナギの、まだ苗だと言った茎はもう伸びたことだろう（二嬢はもう成長したことだろう）」という意。③は国名不明の東歌で、やはり譬喩歌。歌意は、「苗代のコナギの花を衣にすりつけて染め、それを着ると、着慣れるに従って、どうしてこんなに愛着が増すのだろう（この女は、親しむにつれて、どうしてこんなにかわいいのだろう）」という意。譬喩歌という点が共通し、①の歌では女性をコナギにたとえ、③の歌でも、コナギの花で染めた衣を女性にたとえている。

今回問題にしている②は譬喩歌ではないけれども、上三句が「種求め」を導く序詞になっており、コナギの種が恋の苦しさの種（原因）に、言葉の上で重ね合わされている。「や」は反語。作者の男性は、心寄せる女性と親しくなろうとして、それは実現したが、そうなったことで、一層恋の想いに苦しむことになったのである。そういう結果は、この男にとっては事前には予測できなかったこととみえる。

①と②とには「植ゑ小水葱」とある。コナギは、食用あるいは染料とするために栽培もしたことが伺える。秋の花期が終わって種ができると、それを取って翌年蒔いたのであろう。

「伊香保の沼」は榛名湖のこととされてきたが、標高の高い榛名湖では小水葱（こなぎ）は育たないとして、この「伊香保の沼」は榛名山麓の湿地沼沢のことであるとする説がある。さきに示した『ニッポニカ』でも、「北海道を除く日本各地に自生し」とあるので、確かにコナギは寒冷地では育たないのであろう。ただ、榛名湖では冬を越せず自生はできないとしても、一年草であるから、人が秋に種を取って、翌年蒔くという方法での栽培もできないものなのであろうか。私には知識がなくて答えを出せない。どなたかお分かりの方がいらしたら、ご教示くださると大変にありがたい。

榛名湖

二、「いはゐつら」の歌について

上毛野可保夜（かほや）が沼のいはゐつら引かばぬれつつ吾（あ）をな絶えそね（三四一六）

可美都気努（かみつけの）　可保夜我奴麻能（かほやがぬまの）　伊波為都良（いはゐつら）　比可波奴礼都追（ひかばぬれつつ）
安乎奈多要曽祢（あをなたえそね）

上野国の可保夜（かほや）の沼のイハヰツラが引っ張ればずるずると寄って来るように、私に寄ってきて、いつまでも私との仲を絶やさないで欲しい。

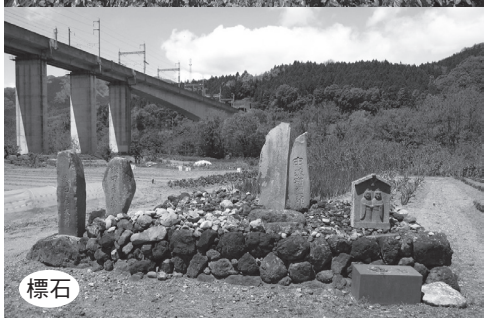
「可保夜が沼」は所在未詳。安政年間（一八五四～一八五九）に成立した橋本直香の『上野歌解』には次のようにある。

山吹日記云群馬郡甲波宿祢（かはすくね）神社の境内に在しを天明三年浅間焼吾妻川泥おしの時流失せりとあれど、さる沼の在し所のさまにもあらず、或はいふ邑楽郡に大沼四ツあり、此内にやなどもいへど慥（たしか）ならず、思ふに伊香保とよく詞（ことば）かよひたれば若（も）し是もいかほの沼の事にはあらざるか

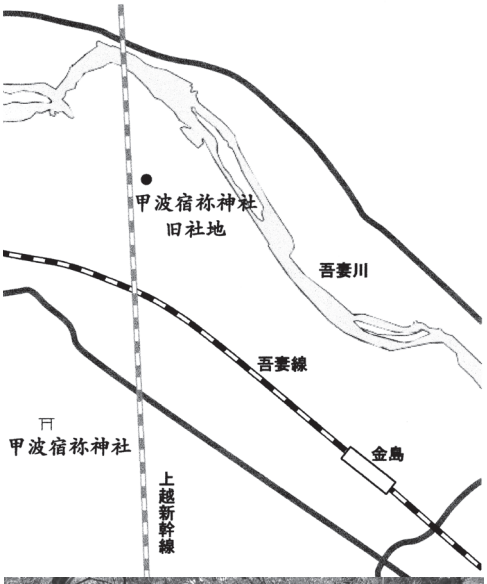
（振り仮名は適宜補った）

ここには、可保夜が沼は甲波宿祢神社の境内にあったとする記事と、邑楽郡内の大きな沼四つの中のいずれかではないかという説と、その二つを示した上で、どちらにも賛同しがたいとして、「いかほ」と「かほや」と語形が似ていることから、可保夜は伊香保のことかもしれないとしている。確かに、「いかほ」の「い」が落ちて、「や」が加われば、「かほや」となるが、果して実際にこのような変化が起こったものかどうか分からない。むしろ、橋本直香が簡単に退けた『山吹日記』の記事に注目したい。

『山吹日記』は、江戸の国学者奈佐勝皐（なさかつたか）が天明六年（一七八六）の四月から五月にかけて上野国に調査旅行に出掛けた折の日記である。群馬県文化事業振興会が編纂した『群馬県史料集』第六巻「日記篇Ⅱ」（昭和四十六年三月刊



甲波宿祢神社旧社地



甲波宿祢神社拝殿

行）に活字化されて収められている。『上野歌解』の記述は『山吹日記』の五月十三日条の要約である。『山吹日記』本文を示す。

西の方はるかに川嶋と聞えて、こゝにも甲波すくねの社を見やりたるは、これなん光明院がつかさどれるなりけり。うのとしのわざはひに、其地さへながれうせて、その社は南の方三四町ばかりひきしりぞきて作りたてたるとぞ。……名に高きかほやが沼も、むかしこの境内に有けるを、近き頃となりては俤すらなくなりしうへ、また其地さへぞうせはてたる。

（傍線筆者。濁点は適宜補った）

「うのとしのわざはひ」というのは天明三年（一七八三）の浅間山の大噴火によってもたらされた災害を指す。この記事によれば、昔、甲波宿祢神社の境内に「かほやが沼」という名の沼があったが、浅間山噴火の際の泥流によって、村も神社も流され、神社は三四町（三二七メートル～四三六メートル）ほど南に再建されたというのである。

現在、甲波宿祢神社の旧社地には標石が立っている。その場所は単なる伝承地にとどまるものではなく、平成九年（一九九七）の発掘調査で、拝殿や本殿の基壇と礎石とが見つかっている。現在の甲波宿祢神社は、『山吹日記』の「三四町」という記述よりももう少し遠く、旧社地の南南西六四〇メートルほどのところに鎮座している。標高は旧社地よりも三五メートルほど高台になる。

『山吹日記』には、かほやが沼は「むかしこの境内に有けるを、近き頃となりては俤すらなくなりしうへ、また其地さへぞうせはてたる」とあるので、この沼は浅間噴火の泥流被害以前にすでに完全に消滅していたものが、泥流によって、その故地さえもが失われてしまったということなのであろう。今日、旧社地の辺りは平地で、観音堂と墓地とがある他は、畑地である。橋本直香は「さる沼の在し所のさまにもあらず」というが、かつて沼があったとしても全く不思議ではない。甲波宿祢神社は式内社（平安初期の『延喜式』に記載されている神社）であるから、神社自体は古い。ただ、その境内の沼はいつ頃からあったのか、そしてその沼がいつ頃から「かほやが沼」と呼ばれていたのか、それは分からない。ただ、遺称地は他になく、同名の沼が方々にあったとも思われないので、現時点で有力な候補地と考える程度のことは許されよう。

「ぬれつつ」の「ぬれ」は、下二段活用動詞「ぬる」の連用形で、ずるずるとゆるんでほどけること。万葉集には五首に例が見える。

①嘆きつつ大夫（ますらを）の恋ふれこそわが髪結（ゆふかみ）の漬（ひ）ぢてぬれけれ（一一八）

（あなたのような立派な方が私への片恋に嘆いていたから私の結った髪が濡れてほどけたのだったのに）

②たけばぬれたかねば長き妹（いも）が髪この頃見ぬに掻きれつらむか（一二三）

（掻き上げればほどけ、掻き上げなければ長いあなたの髪は、最近会って

いないが、掻き上げただろうか）

③入間路の大家が原のいはゐつら引かばぬるぬる吾にな絶えそね（三三七八）

（入間郡の大家が原のイハヰツラが引っ張ればずるずると寄って来るように、私に寄ってきて、いつまでも私との仲を絶やさないで欲しい）

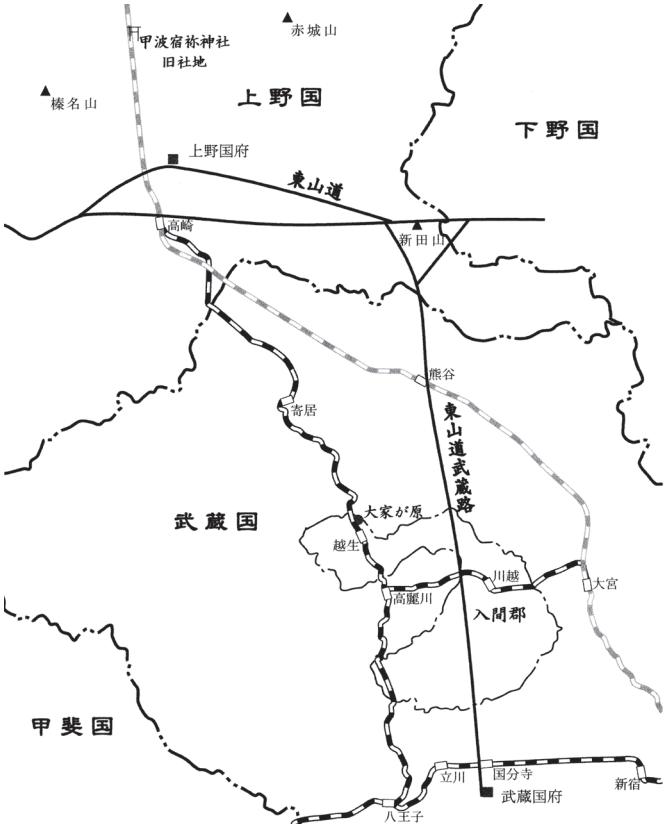
④上毛野可保夜が沼のいはゐつら引かばぬれつつ吾をな絶えそね（三四一六）

⑤安波峰ろの峰ろ田に生はるたはみづら引かばぬるぬる吾を言な絶え（三五〇一）

（安波峰の山田に生えているタハミヅラを引っ張るとずるずると寄って来るように、私に寄ってきて、私との間の言葉を絶やさないで欲しい）

①②は結った髪の毛がほどける例、③④⑤は植物が寄って来る例である。③～⑤の歌はよく似ており、特に、③の歌と、今回取り上げている④の歌とは、地名が異なる他はほとんど同じ歌詞である。どちらが元であるのかは分からないが、一方から一方へと伝播し、地名を変えてうたわれたのであろう。

③の歌は武蔵国東歌である。「入間」は入間郡、「大家が原」は現在の埼玉県入間郡越生町大谷が遺称地とされる。甲波宿祢神社と大家が原との位置関係を示す地図を載せる。大家が原の近くには東山道武蔵路が通っている。この道を通って歌が伝わったものかもしれない。



大家が原

「いはゐつら」が何を指すか未詳。ジュンサイ（ぬなわ）説、スベリヒユ説などがある。このうちスベリヒユ説は『本草綱目啓蒙』（一九世紀初期に刊行された百科事典的本草書）の次の条が大きな根拠となっている。

馬歯莧　ウマビユ和名鈔　スベリヒユ　……イハヒヅル伯州……

（『本草綱目啓蒙』巻二十三　菜之二　柔滑類）

スベリヒユのことを伯州すなわち伯耆国（鳥取県西部）ではイハヒヅルと呼んでいるというのである。この記述には心惹かれるが、スベリヒユは乾燥地に生えることから、上野国東歌の「かほやが沼」に生えているという歌詞に合わない。そこで、水生のつる性の植物であるジュンサイ（ぬなは）説が有力視されるようになった。ここでまた橋本直香の『上野歌解』を引く。

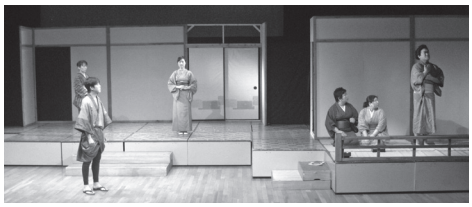
○伊波為都良、此は蓴菜の事とはしられたれど其義分がたし、按ふに石井蔓にて元岩垣沼やうの所に在しをかく云ひそめしにもやあらむ『ぬなは』といふも水中に生ひて滑なる蔓草ゆゑ『ぬる〳〵縄』の義にて同し物も所によりて名のかはりたるにて　未勘国歌に『あはをろのをろたにおはる多波美豆良ひかばぬる〳〵わをなたえそね』、とある多波美豆良も同じ物と聞えたれば……沼縄も石居蔓もたはみづらも同じにて皆蓴菜の事とすべし【此頃出羽国米沢人明井水麻呂てふ学士訪ひ来て云く、むさしの国入間郡の辺りにては今も蓴をいはづらといふといはれき】

沢瀉久孝氏は「蓴菜であれば最もふさはしいが、ぬなはをいはゐづらと云つた確証が無く、なほ考ふべきであらう」（『万葉集注釈』三三七八番歌）とする。『上野歌解』の右の引用の末尾の注記は、米沢の人から聞いたという伝聞に過ぎないので信憑性は不確かだが、幕末、武蔵国入間郡の辺りで蓴菜を「いはづら」と言う、というのは参考程度にはなろう。

第36回県民芸術祭参加　演劇制作事業　絹の国から ～繋がる想いは、シルクな風に乗って…～

8/25 土　8/26 日

時　間　25日（土）　1回目14：00開演（13：30開場）　2回目19：00開演（18：30開場）
　　26日（日）　14：00開演（13：30開場）
料　金　全席自由　1,000円
会　場　ベシア文化ホール 小ホール
発売日　6月2日（土）8：30～
助　成　㈶地域創造



「絹の国から」演劇制作事業

【衣装製作体験講座】
日　時　7月7日（土）、15日（日）、29日（日）
　　10：00～16：00
会　場　群馬県生涯学習センター 創作実習室
内　容　演劇を通して舞台芸術の振興と香り高い文化の地域づくり、創造力豊かな県民文化の向上及び人材を育成する「演劇制作事業」の一環として、衣装製作の体験講座を行います。
講　師　田村啓子（前橋文化服装専門学校デザイン画講師）
参加費　無料（但し、保険料800円が必要です）
募集定員　高校生以上10名
募集締切　6月23日（土）応募多数の場合は先着順

衣装製作体験講座・糸にまつわる偉人講座へは氏名、住所、電話番号、年齢を明記してFAXまたはハガキで下記までお申し込み下さい。
〒371-0801 前橋市文京町2-20-22
公益財団法人 群馬県教育文化事業団
TEL：027-224-3960　FAX：027-224-3960

【糸にまつわる偉人講座】

開催日時	テーマ	講　師
7月21日(土) 14:00~16:00	高山長五郎	宮崎俊弥 氏（共愛学園前橋国際大学教授）
7月28日(土) 14:00~16:00	萩原錢太郎	松浦利隆 氏（群馬県企画部世界遺産推進課長）
8月 4日(土) 14:00~16:00	中居屋重兵衛	唐沢定市 氏（中之条町歴史と民俗の博物館顧問）

会　場　群馬県生涯学習センター 第2研修室
内　容　8月25日、26日に行う「絹の国から～繋がる想いは、シルクな風に乗って…～」の演劇公演に先立ち、劇中に登場する糸にまつわる偉人を読み解く講座を行います。
参加費　無料
募集定員　30名
募集締切　7月14日（土）応募多数の場合は先着順

7/10 火

◎ 昼の部　13：00開演
◎ 夜の部　18：00開演
※ 開場は開演の30分前

入場料　S席5,000円
　　A席3,500円
　　B席2,000円
　　〈学生1,000円〉
※ 昼の部はS席のみ販売
会　場
ベイシア文化ホール
大ホール
お申込み・問い合わせ
ベイシア文化会館
前橋市日吉町1-10-1
TEL:027-232-1111
FAX:027-232-1115
http://www.gunmabunkazigyodan.or.jp/kenmin/

松竹大歌舞伎

平成24年度 文化庁優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業 日本の宝・群馬の宝Ⅱ

制作　松竹

義経千本桜　三幕
鳥居前
道行初音旅　清元連中 竹本連中
川連法眼館

主なる出演
七代目 尾上菊五郎
五代目 中村時蔵
四代目 尾上松緑
五代目 尾上菊之助

松竹大歌舞伎プレ講座

『義経千本桜』の魅力

―〈貴種流離〉のダンディズム ―

松竹大歌舞伎公演に先立ち、歌舞伎についての基礎知識を高めるための講座を開催します。

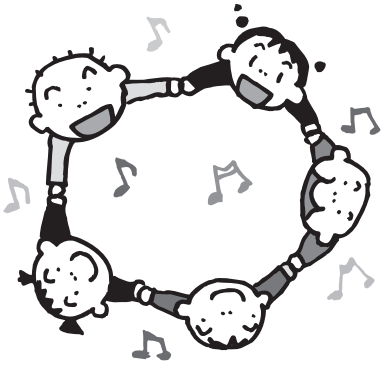
日　時　7月7日（土）14：00～15：30
会　場　ベイシア文化ホール展示室
講　師　安保博史
　　（群馬県立女子大学文学部国文学科教授）
参加費　無料（要予約）先着50名

公益財団法人移行のお知らせ

群馬県教育文化事業団は、公益法人制度改革にともないまして、群馬県知事から公益認定の通知を受け、平成２４年４月１日に公益財団法人に移行しました。これを機に、より一層本県における文化芸術の振興や奨学金貸与を通じた人材育成を目指し、公益財団法人として期待される役割を果たして参りますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人群馬県教育文化事業団
理事長　小見輝夫

古馬牧（コメマキ）の人形浄瑠璃（略称　下牧人形）



地域文化をつなぐ

下牧人形芝居保存会 吉田座 座長会
ぐんま人形芝居連絡協議会 会長
山田忠夫

下牧人形は、みなかみ町下牧地区に伝承されている三人遣いで、大阪の文楽（世界遺産に登録された人形芝居）形式の人形で、元禄年間（一六八八年～一七〇四年）に伊勢参宮に出掛けた村の古老三人が道中で人形芝居を観て魅了され若衆の遊び道具にもと人形の首（カシラ）五個を買って帰ったのが始まりとされています。

その後一つ、二つと買い求め仲間七、八人の所有物として楽しんでいましたが、明治八（一八七五）年に上方の人形遣い、吉田勘十（吉田勘蔵の子）が勘当の身で人形を遣いながら諸国遍歴の折り当村に滞留し、勘十は人形の振り方だけでなく人形を刻んだり大道具や小道具などを作ったりすることに長じており若い衆に指導しました。

その後、勘十は村の懇願で許されて一旦実家に帰った後、再び親子で訪れ秘伝公開の興業を行いその記念に首二個を贈ったといわれ、この頃が下牧人形の最盛期であったといわれています。

以上は古老による口伝で、正確な記録類は、明治四十一（一九〇八）年保管していた家の火災で焼失してしまいますが幸いにも人形類は他の家で上演中だったため火災から免れました。

しかし、文久年間（一八六一～一八六三年）頃は盛んであったといわれ元治元（一八六四年）に建造（棟木で確認）された牧野神社境内の舞殿が落成時にもよく奉納人形芝居が公開されたと伝えられているので幕末の創始とも考えられます。

その後下牧人形は、明治三十八（一九〇五）年下牧地区（壮健団）の所有物とされ吉田勘十にちなんで「吉田座」として人形その他の維持管理、上演活動を行うようになりましたが、戦争と警察の干渉で中断され終戦後、昭和二十二（一九七四）年四月十五日の牧野神社例祭と下牧地区敬老会（下牧公民館）で復活し今日まで毎年継続して上演しています。

平成十（一九九八）年に群馬県・群馬県教育文化事業団の呼びかけで、県内人形五座（八城人形・松井田町、津久田人形・赤城村、尻高人形・高山村、須賀人形・沼田市、下牧人形・月夜野町、当時）が一同に交い「ぐんま人形芝居'98」が初めて開催され、その翌年「ぐんま人形芝居連絡協議会」が発足しました。しかしその後、津久田人形が後継者問題で残念ながら休座となりました。

下牧人形も、平成十五年度より「東日本旅客鉄道文化財団地方事業支援」をうけて、首の修復、衣装の更新、義太夫・三味線の伝習などに取り組み又、平成十九年度には後継者問題が深刻なのを心配した群馬県・群馬県教育文化事業団の「小・中学校伝統芸能教室」に加えての支援を受け、下牧地区の枠外で人形教室の受講生を募り九ヶ月の特訓を経て二十年三月に成果発表の公演を行い新たに九名の座員を加え二十三名の座員で更なる伝統文化の保存・継承に努めております。以前は三味線・義太夫は「録音テープ」で上演しておりましたが、やはり義太夫（浄瑠璃）の語りは登場人物の台詞や仕草、情景描写まで戯曲のすべてを叙事的な力強さで表現する語りの音楽であり又、三味線は語りの間合いを計りながら音色と抑揚・緩急で太夫をリードして語りを引き立て人形の所作は、太夫の語りと三味線あってこその人形であり、これが三業一体での人形浄瑠璃の魅力で観客に感動を与えることを痛感しております。「録音テープ」ではこの感動を与えることは出来ません。

しかしながら、三味線には楽譜はなく義太夫は音の幅も広く所作も表情も言葉に出来ない様々な感情の動きも一人の太夫がすべて語り分ける芸を習得するのは一朝一夕に出来るものでなく、各座でも懸命に頑張っておりますが関係者のご理解とご支援を得て継続して取り組む大きな課題と思っております。

新古代主義絵画について

藤井靖

現代は複雑な時代であり、混迷は深まるばかりです。現代とは何かという問いに簡単な答はありません。また私は絵画の制作を専門に行っていますが、現代美術とは何かという問いも難しい問題です。

ある時、先輩の芸術家の方に「今は自由な時代で、自由過ぎて何をしたら良いかわからないでしょう。」と言われました。案外そんな事はありません、というのが私の答です。私は超複雑系である現代美術の世界で物事を簡決にするために三つの掟を自分に課しました。一．平面に描く。二．絵の具で描く。三．筆で描く。この三つが私の掟です。時にはクレヨンで描く等例外もあります。しかし概ね三つの掟に従ってずっと絵を描いています。現代美術の世界はタブーの無い世界で様々な制作方法をとる人がいます。発光ダイオードを使う作家もいるでしょうし、火薬を使って絵を描く画家もいるそうです。しかし、しっかりとした自分の、オリジナリティのあるスタイルを持っているアーティストならば、自らの掟を持っている作家は多いと思います。

絵を描くという行為は人間にとって根源的な行為です。絵は原始時代から現代に至るまであらゆる文明に存在して来ました。絵を描く行為は根本的には太古の昔から現在まで何も変っていないと私は思います。原始人が岩に描いた絵が最新のモダンアートより新しさを持っているという事はあるものです。

私は三つの掟に従って制作する自分の絵にニックネームをつけました。新古代主義絵画です。二〇〇八年に高崎シティギャラリーで、第一回新古代主義絵画展を行いました。二〇一〇年の秋に東京で、初期の新古代主義絵画展が行なわれました。またこの原稿を書いている直後の二〇一二年の五月には、高崎シティギャラリーで、残響の新古代主義絵画展を行う予定です。

平面絵画の制作を行っていて、現代美術家を自覚しているアーティストは誰しも、平面表現に限界を感じる時期があると思います。実際現代美術の作家の中で平面から抜け出してしまった作家は実に多いです。私はあえて平面に拘って絵を描いていこうと思っています。私は新古代主義者だからです。

私は元々、理工系の出身です。二十歳の頃、青年らしい月並の挫折感から文学や芸術に興味を持つ様になりました。私が好きだったのは、三島や太宰や芥川の様な自殺した文学者でした。美術では現代美術の出発点になったと言われていたダダイスムに共感しました。

日本の自殺文学者もダダイスムの芸術家も十九世紀末に神の死を宣言した哲学者であるニーチェの影響を受けていると私は感じました。ニーチェはドストエフスキーを読んでいたと思います。ドストエフスキーは「人間は自殺しないで済すために神を捏造した」と書いています。日本人の多くは自覚的には宗教を持っていないので、そう言う意識は無い様ですが、人類の歴史上で神がいないと、はっきりさせてしまった事は大変な事なのです。現代美術を遡っていくと、それ以上遡れない限界点があると感じます。それが私にとってはドストエフスキーの文学です。作品では、「地下室の手記」にあると思います。

一九八六年だと思いますがＮＨＫで、たぶんＢＢＣ製作のテレビ番組で「モダンアートの百年」を観てダダイスムを知りました。ダダは神の死の哲学の影響を受けていると直感しました。「ダダイストは芸術が社会を変えると信じた最後のロマンティストだった。」とテレビで言っているのを聞き、私は強く感銘を受けました。ハンス、アルプの紙辺を落として貼り付けた、偶然の切り絵を知り、それが伝統的な芸術を否定する、新しい芸術であったと聞き、大変興奮しました。

当時の昭和時代ではダダは退廃的であるととらえる人もいました。しかし私は退廃的であるとは思えず、生き生きとした新しい芸術が二十世紀の初期に

あったのだと感じました。

その後、片手間ではありますが現在に至るまでずっと二十世紀美術の研究を続けています。

ダダがその発祥の地であるチューリッヒで始まったのは一九一六年であるそうです。一九一六年の二月五日、ドイツから第一次大戦を逃れてやって来た詩人のフーゴー・バルがキャバレーボルテールをオープンしました。ダダイスムのメンバーは殆んどが第一次世界大戦から避難した亡命者の若者でした。そこには驚く程、後に歴史に残った芸術家が集まっていました。ダダの芸術運動は非常にラジカルでしたが長続きはしなかった様です。

少し後にダダに続いて、二十世紀最大の芸術運動であるシュールレアリズムが起こりました。シュールレアリストが闘ったのは近代に於ける西洋の合理主義でした。

デカルト以降と言われている様ですが、近代の西洋は合理主義の時代です。西洋は産業革命以降に圧倒的な科学的な力を持ち、西洋以外の文明を遅れた文明とみなし、次々と植民地にしてしまいました。二十世紀になって地球上にもはや植民地にされる領土がなくなってしまった時に第一次世界大戦が起こりました。

西洋の合理主義は本来科学の領域ではない、数理では説明できない人間の心さえも支配できると錯覚したのです。フロイトの発見した無意識もある意味、合理主義に反発して、発明されたのだと言えると思います。

圧倒的な力を持つ合理主義に対して、シュールレアリストはNOと言っていた様に思います。彼らは合理主義より、ずっと昔から根源的に存在していた、魔術とか呪術に着目しました。ここでシュールレアリストの詩人や画家の名前をあげることはしません。ただ超現実主義が二十世紀最大の芸術運動であった事は疑う余地がないと思います。

私にとってダダイスムやシュールレアリズムは血であり肉です。しかし多くの日本のアーティストにとっては、それは教科書で習った事であり、あまり実感できない事だと思います。

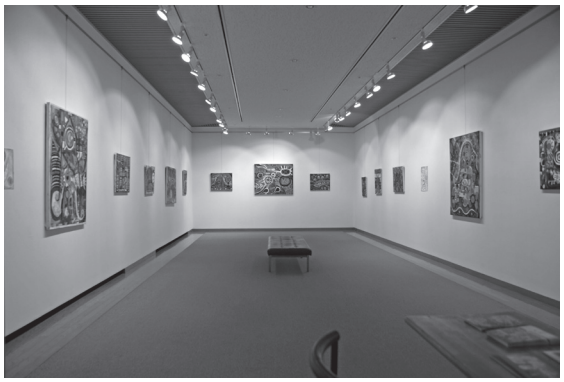
私は今の現代美術の多くは根処のない不毛な遊びに思えてしまいます。それは合理主義者で財力のあるパトロンなしには存続し得ないでしょう。インデペンダントではないのです。

私は自然科学や合理主義だけでは人間は救われないと思います。アートが必要です。自然科学と同じ位古い起源を持つ、魔術や呪術が必要なのです。芸術は魔術的であり、呪術的であるべきです。

私が目指すのはお洒落なアーティストではなく、原始の魔術師です。

ダダイスムやシュールレアリズムと新古代主義は反合理主義的と言う面で共通するものがあります。しかし、私は極東の島国から出た事のない昭和生まれの日本人であり西洋人ではありません。私の絵はアニメーションの影響を受けています。私の好きなアニメは、「オバケのQ太郎」とか「天才バカボン」の様な昭和のアニメです。それらのアニメは現代的と言うより戦後的と言う方が合っている気がします。私は昭和生まれの戦後の人間です。少年時代には朝から晩までカラーボール野球をしたり、缶蹴りをしたりして遊びました。私はバブルの時代の頃から時代になじめなくなってしまい苦しい時代になったと感じています。今は絵描きをしています。五年程前に新古代主義と言う造語をつくりました。そこには少し昔に戻りたいとゆう願いがあるのかもしれません。

いつの間にか私はバカボンのパパの歳を過ぎてしまいました。私はバカボンに出て来そうな芸術家です。



藤井　靖

プロフィール▶1965年　群馬県出身。▶1985年　理学部在学中に文学や芸術に傾倒する。▶1992年　失業中に高崎市内の絵画教室に通う。▶2006年　高崎シティギャラリーで個展。▶2010年からグループ展、縁祭（えんさい）開催。▶2012年5月　残響の新古代主義絵画展。▶2012年6月15日～6月20日　グループ展開催予定（名前を縁祭から、どじんじん、にする）。

カフェの隅から

この子たち

竹田朋子

パン教室に通い始めた。

家業のカフェでケーキは毎日焼いているが、娘たちの作ったパンに惹かれ挑戦してみたくなったのだ。

早速、パンこね機を購入した。昨夏のことである。（さあ、焼こう！）と意欲満々。だが時季がよくなかった。

夏は高温のためパン生地がダレてしまい扱いにくいのだ。うまく膨らまなかったり、堅くなってしまったり……。本を片手に四苦八苦。何度も挫折しそうになった。だが、せっかく本格的なこね機を購入したのだからと、納得のいかないパンを焼き続けた。しかし独学では限界と悟り、娘の通っていたパン教室のＩ先生に教えを請うことにした。

Ｉ先生の指導のもと、初めて本格的なパン作りを開始した。驚いた。こね機に粉類を投入し水を入れる段階で、既に私は間違っていたようだ。

こね機の回転が始まってから水を加えるのだが、一気に入れるのではなく、様子を見ながら少しずつ注ぎ入れるのだ。自ずと気が入る。

生地の堅さを確認し、回転が止まったところでバターを加える。こね終わると一次発酵。そして分割、丸め。ここで初めて自らの手で生地に触れる。柔らかい。赤ちゃんの肌のように弾力がある。生地を扱う手が自然にやさしくなっている。

50グラムずつに分割する。小さなパンの赤ちゃんの誕生だ。

「この子たち」Ｉ先生の口からふとそんな言葉が漏れた。手と目と時間をかけて焼きあげるパン。生地をみつめる先生の眼は母親のそれのようだ。いくつかの課程を経て仕上げ発酵。（もう焼きに入っていいよ）と生地が教えてくれる。生きているから ―。

焼きあがったパンたちは、1つ1つ表情が異なる。やんちゃな子、おとなしい子。私はすっかりパン作りに魅せられてしまった。

パンはケーキに比べるとアバウトに作れる、ともいわれる。だが、直に手で触れられるだけに、自分がでる。怖い、とも思う。

生きているケーキを焼きたい、とは常に願っていることだが、パンはよりその思いに近づける気がする。

本格的な夏を前に、パン生地に語りかけながら修業（？）を続けよう。

竹田 朋子〈略歴〉
長野原町出身／群馬ペンクラブ会員
散文誌「せせらぎ」同人／短歌誌「遠天」同人
第55回「日本随筆家協会賞」受賞／第46回群馬県文学賞受賞
著書『風の吹く道』

レストラン 伊万利ダイン
前橋市文京町 2-20-22 群馬県生涯学習センター別館 TEL：027-224-1693

群馬県・伊香保温泉

HOTEL 天坊

政府登録国際観光旅館
ロイヤルチェーンホテル加盟店
群馬県渋川市伊香保町396-20
予約直通 Tel.0279-72-4489

東京営業所 東京都台東区東上野6-10-7金子ハイツ503 〒110-0015
Tel. 03-3843-0083

埼玉営業所 埼玉県さいたま市中央区下落合4-23-10-101 〒338-0002
Tel. 048-856-1660

●料理茶屋 湯の花亭 上州四季の懐石

春 夏 秋 冬

味わいの旅

——四つの食事処で料理が選べる

アパマン・土地建物・
店舗事務所・土地活用

ペット可

株式会社 藤田ビジネスプロモーター
http://fujita-biz.co.jp/
前橋市問屋町一丁目1番1号 027-251-4455(代)

ローンのお申し込みは、群馬銀行へ！

住宅ローン「金利選択プラン」
選べる魅力で快適な住まいづくり

マイカーローン
自動車の購入・車検等に

教育ローン「仕送り名人」
入学金・授業料・仕送り費用に

住宅リフォームローン
ご自宅の増改築・補修・改修費用に

「ナイスサポートカード」カードローン
ホームページ・モバイルサイトからもお申込可能

フリーローン「おまとめ太郎」
ご返済をまとめて一本化

詳しくは窓口または、下記までお問い合わせください。
群馬銀行ダイレクトセンター
0120-139138 受付時間 9:00～20:00
土・日・祝休日、12/31～1/3は除きます。

あなたの夢、応援します。
群馬銀行
http://www.gunmabank.co.jp/

編集後記

◇近年、高度情報化社会に伴い、情報技術の発展は、政治、文化、教育などの日常生活を大きく変貌させています。

また、物質的には豊かな生活となり、人々の趣味も多種多様化が進んできました。

私も現代人の一人として、趣味が広がる一方で、そのものの価値が低いものになってしまっているのではないかと感じております。物が乏しかった時代は、一つの物事に対して人々が一致団結して協力することで、地域文化や伝統文化が芽生え、継承されてきました。そんな時代に目を向けてみるのも新しい発見や感動があり、面白いものです。（ＮＨ）

◇本誌希望の方は、送料（140円×希望回数分の切手）を添えてお申し込み下さい。また、ご要望ご意見等もお寄せください。

題字・群馬県知事　大澤正明

ⓒ 公益財団法人 群馬県教育文化事業団
（本誌からの無断転載、コピーを禁じます。）

上州文化
●第130号 ●平成24年5月25日発行（年4回発行）●発行人 小見輝夫
●発行所 〒371-0801 前橋市文京町二丁目20-22 公益財団法人 群馬県教育文化事業団
●電話 027-224-3960 ● URL http://www. gunmabunkazigyodan.or.jp/
●印刷 ㈱開文社印刷所 前橋市大手町三丁目18-7